

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 4 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010 年度～2011 年度

課題番号：22730534

研究課題名（和文）精神病への認知行動療法フィデリティ測定法の開発と研修プログラムの効果検討

研究科題名（英文）Development of measurement for fidelity of Cognitive Behavioral Therapy for Psychosis to examine the effect of training program

研究代表者 山崎 修道 (YAMASAKI SYUDO)

東京大学・医学部附属病院・特任助教

研究者番号：10447401

研究成果の概要（和文）：精神病への認知行動療法（Cognitive Behavioral Therapy for Psychosis：CBTp）は、海外で有効性が実証されている科学的な心理療法である。しかし、我が国で効果研究を行い、実践で提供される CBTp の質を確保するためには、CBTp の有効な要素が提供されていることを確認するフィデリティ評価が必要である。本研究では、1) CBTp フィデリティ測定ツールの開発、2) 研修プログラムの効果検討を目的とした。研究期間内では、1) 日本語版 CTS-Psy を作成し、2) 国内外の専門家による CBTp 研修ワークショップを実施、3) 専門家・実践家によるスキル評価とスーパービジョン体制を整備した。

研究成果の概要（英文）：Cognitive Behavioral Therapy for Psychosis (CBTp) is the psychotherapy, which is based on scientific evidence in advanced country. For clinical trial and clinical practice of CBTp in Japan, we need to develop the Japanese version of fidelity measurement of CBTp. The aims of this study were development of the Japanese version of the measurement tool for the fidelity of CBTp, and the examination of the effect of education and training program for CBTp. In this study, we developed the Japanese version of Cognitive Therapy Scale for Psychosis. Then we have held the training workshops of CBT for psychosis, and we have built the professional teams for supervision of CBTp.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2011 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学，臨床心理学

キーワード：精神病 認知行動療法 フィデリティ 研修プログラム

## 1. 研究開始当初の背景

これまで精神病 (psychosis) の治療は、薬物療法を中心に行われてきたが、薬物療法に認知行動療法を組み合わせた効果が大きいことが分かってきている。精神病への認知行動療法 (Cognitive-Behavioral Therapy for Psychosis：CBTp) は、欧米での無作為割付効果研究 (Randomized Controlled Trial：

RCT) によって、効果が実証されている (Zimmermann et al. 2005, Tarrrier et al. 2004, Pilling et al. 2002, Gould et al., 2001 など)。また、認知行動療法による心理社会的な介入の前後で、脳機能が回復しているとの報告 (Wykes et al. 2002) もある。このような研究結果を踏まえて、イギリスでは精神病への認知行動療法が、心理社会的介入法の第一選択としてガイドラインに策定されて

いる (NICE, 2003).

認知行動療法は、エビデンスベースの心理療法であり、科学的な心理社会的介入法である。しかしながら、認知行動療法に限らず、心理療法の手続きは、実験における介入操作のように完全に画一化することは不可能である。そのため無作為割付効果研究を実施する際には、心理社会的介入法の有効な要素が、確実に提供されていることを客観的に示す必要がある (菊池, 2006)。

欧米で認知行動療法の無作為割付効果研究を行う際には、認知行動療法セラピストの介入手続きを可能な限り統一し、介入の質を担保するために、①治療プロトコル・マニュアルに沿った介入を行った上で、②セラピストに対してフィデリティ (忠実性) 評価を行う。わが国では、認知行動療法の治療プロトコル・マニュアルの普及は進み始めている (丹野ら 2004, 丹野・坂野 2008, Kingdon & Turkington (原田 訳) 2002, Kingdon & Turkington (原田 訳) 2007 など)

しかしながら、フィデリティ評価のためのツールは、欧米でもそれぞれの無作為割付効果研究ごとに作成されたものが使用されることが多く、汎用的に使えるものはほとんどない。このような現状を踏まえて、Haddock et al. (2001) は、認知行動療法実施者が、精神病への認知行動療法に必要な要素を満たしているかどうかを評価するために、Cognitive Therapy Scale for Psychosis (CTS-Psy) を作成した。CTS-Psy が現状では唯一の、精神病への認知行動療法フィデリティ評価尺度である。CTS-Psy は、A) 精神病への心理社会的介入全般に共通する (General) 治療的態度と、B) 認知行動療法に特有の (Specific) 治療的技法に分けて評価できる。

精神病への認知行動療法フィデリティ評価法は、①認知行動療法の客観的なエビデンスを確立するため、②認知行動療法の幅広い普及のため、③認知行動療法の「何が」「どの程度」精神病の回復に寄与しているのかを検証するために必要不可欠である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、1) 精神病への認知行動療法の客観的なフィデリティ (忠実性) 測定法の開発。2) フィデリティ測定法を利用し

てた日本における認知行動療法フィデリティの実態調査、3) 認知行動療法研修プログラムの効果評価を行い、認知行動療法において「何が」「どのように」精神病の回復に寄与しているのかを明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

本研究では、日本語版 CTS-Psy を開発し、以下の3点を明らかにする。

- 1) 精神科臨床に携わる医師・臨床心理士・コメディカルスタッフに対して、日本版 CTS-Psy を施行し、現状での日本の精神科臨床における CBTp フィデリティを測定する。現状の日本の精神科臨床へ CBTp を導入するために、セラピストが強化すべき点を明らかにする。
- 2) 1) の結果に基づいて CBTp 研修プログラムを作成し、研修ワークショップを実施したうえで研修プログラムの効果を評価する。
- 3) CBTp フィデリティの改善が、実際に精神病を持つ患者の治療アウトカムの改善につながっていることを明らかにする。

## 4. 研究成果

研究計画の遂行に向けて、以下を実施した。

- 1) 我が国のエキスパートによる精神病への認知行動療法ワークショップを実施した。
- 2) 日本国内における精神病への認知行動療法エキスパートによるネットワーク (CBTp ネットワーク) に参加し、情報収集を行った。
- 3) 精神病への認知行動療法フィデリティ尺度 (CTS-PSY) を翻訳し、国内学会におけるワークショップにて発表した。
- 4) 海外のエキスパートと精神病への認知行動療法フィデリティ尺度の施行方法についてディスカッションを行い、情報収集した。
- 5) 海外のエキスパート (Paul French) による精神病への認知行動療法ワークショップを集中的に実施した。
- 6) 海外のエキスパートによる精神病への認知行動療法ケーススーパービジョンを実施し、フィデリティについて確認した。
- 7) インターネット動画通信を利用した継続的なスーパービジョン体制について協力

を依頼した。

- 8) 精神病への認知行動療法フィデリティ尺度 (CTS-PSY) 日本語版を使用し、面接録音データを基にパイロット評価を行った。
- 9) 精神病への認知行動療法の施行者を育成し、東京大学医学部附属病院にて継続的に施行する体制を整備した。
- 1) ~9) について、精神保健予防学会、統合失調症学会等で発表し、雑誌論文に成果を公表した。今後は、平成 24 年度より、組織的に面接の録音データを収集し、ワークショップ・スーパービジョンを継続しつつ、フィデリティ評価ツールを改訂する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

① 山崎修道 (2011) Cognitive Behavioural Case Management in Early Psychosis: A Handbook. Review of Book Abroad. 精神療法 (査読無) 37: 653-654

② Koike S, Nishida A, Yamasaki S, Ichihashi K, Maegawa S, Natsubori T, Harima H, Kasai K, Fujita I, Harada M, Okazaki Y (2011) Comprehensive early intervention for patients with first-episode psychosis in Japan (J-CAP): study protocol for a randomised controlled trial. Trials (査読有) 12:156

[学会発表] (計 6 件)

① 山崎修道, 石倉習子, 柳瀬一正, 栗田弘二, 足立孝子, 峰野崇, 市川絵梨子, 小池進介, 井上直美, 西田淳志 (2012) 初回エピソード精神病早期支援における面接スキル向上の取り組み～ワークショップとフィデリティ評価によるスキルアップ～ 第 6 回日本統合失調症学会 名古屋 [2012/3/17]

② 市川絵梨子, 小池進介, 山崎修道, 笠井清登 (2012) 早期支援における再燃予防プログラムの実践例 第 6 回統合失調症学会 名古屋 [2012/3/17]

③ 山崎修道, 江口聡, 古川俊一, 笠井清登 (2012) 強迫症状を併発し、デイケア利用が長期化した統合失調症患者への認知行動療法の試み 第 4 回不安障害学会 東京 [2012/2/5]

④ 山崎修道, 野口恭子 (2012) 不安障害に対する心理的アプローチ 第 4 回不安障害学会 東京 (シンポジウム) [2012/2/4]

⑤ 山崎修道 (2011) 人材育成の課題と研修の取り組み 初回エピソード精神病の早期支援・治療のエビデンスと実践 第 15 回日本精神保健・予防学会 東京 (シンポジウム) [2011/12/3]

⑥ 山崎修道 (2010) 精神病 (Psychosis) への認知行動療法～精神病早期介入における心理社会的介入の実際: 初回精神病エピソードのケースマネジメント, CBT, 家族支援を中心に 第 14 回日本精神保健・予防学会 東京 [2010/12/12]

[図書] (計 2 件)

① 山崎修道 (2011) 統合失調症への適用—精神科デイケア, 下山晴彦編 認知行動療法を学ぶ 第 18 回講義 pp.321-336 金剛出版

② 山崎修道 (2011) 早期介入と就労の機会 岡崎祐士, 笠井清登 監修 針間博彦 監訳 精神病早期介入 回復のための実践マニュアル 第 16 章 pp.251-263 日本評論社

[その他]

アウトリーチ活動

① 山崎修道 (2012) 「ここまで分かった・ここまで変わった精神疾患の研究と治療・支援～当事者・御家族のための最新知識～」杉並区家族会講演会 [2012/3/13]

② 山崎修道 (2012) 「ここまで分かった・ここまで変わった精神疾患の研究と治療・支援～当事者・御家族のための最新知識～」世田谷さくら会講演会 [2012/3/10]

③ 山崎修道, 西田淳志 (2012) ユースメンタルサポート 早期支援の視点から

青年期のメンタルヘルス研修会 特定非営利活動法人 Switch 仙台 (研修講師)  
[2012/1/22]

④ 山崎修道 (2012) 「精神障がい者を支えるコミュニケーションのポイント 一般研修「精神障害者のための職業能力開発」福岡障害者職業能力開発校 (研修講師)  
[2012/1/5]

⑤ 山崎修道 (2011) 「精神障害者とのコミュニケーションのポイント」職業能力開発総合大学校 一般研修「精神障害者のための職業能力開発」職業能力開発総合大学校 (研修講師) [2011/12/13]

⑥ 山崎修道・石垣琢磨 (2011) 早期精神病への認知行動療法入門 第 15 回日本精神保健・予防学会 東京 (ワークショップ・司会) [2011/12/04]

⑦ 山崎修道, 菊池安希子, 大野裕 (2011) 「早期精神病への認知行動療法 How To Do-Paul French 先生ワークショップ」新学術領域「精神機能の自己制御理解にもとづく思春期の人間形成支援学」/国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター共催 (ワークショップ企画・司会) [2011/11/29]

⑧ 山崎修道 (2011) 「精神障害者とのコミュニケーションのポイント」東京障害者職業能力開発校 一般研修「精神障害者の理解と対応」東京障害者職業能力開発校 (研修講師) [2011/9/6]

⑨ 山崎修道 (2011) 「精神障害者への対応およびその実態について」練馬区障害者就労促進協会 就労支援セミナー 練馬区役所 (講演) [2011/8/29]

⑩ 山崎修道 (2011) 「精神障害を支えるコミュニケーションのポイント」京都府立京都障害者高等技術専門校 一般研修「精神・発達障害者の理解と対応」京都府立京都障害者高等技術専門校 (研修講師)  
[2011/8/4]

⑪ 山崎修道 (2011) 「知的・精神・発達

障害者の理解と就労支援」練馬区障害者就労支援ネットワーク会 練馬区役所 (講演) [2011/7/4]

⑫ 山崎修道, 管心 (2011) 「これからの日本を支えるこころの健康」第 28 回日本医学会総会一般市民向け企画「わかろう医学つくろう!健康 EXP02011」日本科学館 (講演) [2011/6/24]

⑬ 山崎修道, 古川俊一 (2011) 「精神障がいを持つ人のリハビリと就労～うつ病のリワークと統合失調症の就労支援」平成 22 年度障害者雇用促進セミナー 飯田場公共職業安定所・文京区共催 文京シビックセンター大ホール (講演) [2011/2/21]

⑭ 山崎修道 (2010) 「統合失調症の当事者を支援するコミュニケーションのポイント」日立製作所 第 14 回サポーター研修会 日立製作所本社 (研修講師)  
[2010/12/17]

⑮ 山崎修道 (2010) 「精神障がい者を支えるコミュニケーションのポイント」平成 22 年度精神障害者のための職業能力開発職業能力開発総合大学校 (研修講師)  
[2010/12/15]

⑯ 山崎修道 (2010) 「統合失調症の理解と関わり方」「つながろう心の手～自分らしくあるために～」日立製作所 精神障がい者雇用促進プロジェクト 宿泊研修会 クロスウェーブ船橋 (研修講師)  
[2010/10/30-31]

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山崎 修道 (YAMASAKI SYUDO)  
東京大学・医学部附属病院・特任助教  
研究者番号: 10447401

### (2) 研究協力者

菊池 安希子 (KIKUCHI AKIKO)  
国立精神・神経医療研究センター・司法精神医学研究部・室長  
研究者番号: 60392445

石垣 琢磨 (ISHIGAKI TAKUMA)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授  
研究者番号：70323920

松本 和紀 (MATSUMOTO KAZUNORI)  
東北大学・医学系研究会・准教授  
研究者番号：40301056

西田 淳志 (NISHIDA ATSUSHI)  
東京都医学総合研究所・精神行動医学分  
野・主任研究員  
研究者番号：20510598